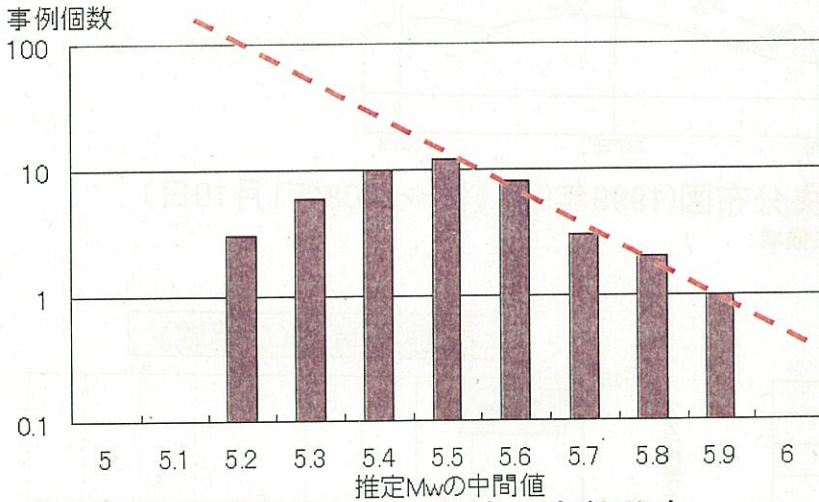


新しい基準で事例を追加した場合の推定Mwの中間値の度数分布

推定Mwの中間値	5.0	5.1	5.2	5.3	5.4	5.5	5.6	5.7	5.8	5.9	6.0	計
追加前				2	6	8	7	2	2	1		28
追加			3	4	4	4	1	1				17
追加後	0	0	3	6	10	12	8	3	2	1	0	45

※ 推定Mwの中間値は、東海地方のプレート間すべり推定ツール(中村ほか、2004)を用いて条件に適合したすべりのMwの上限と下限の中間の値。なお、小数点以下を切り捨てて統計を取っている。(例:上限5.4、下限5.9の場合、中間値5.65 → 5.6)



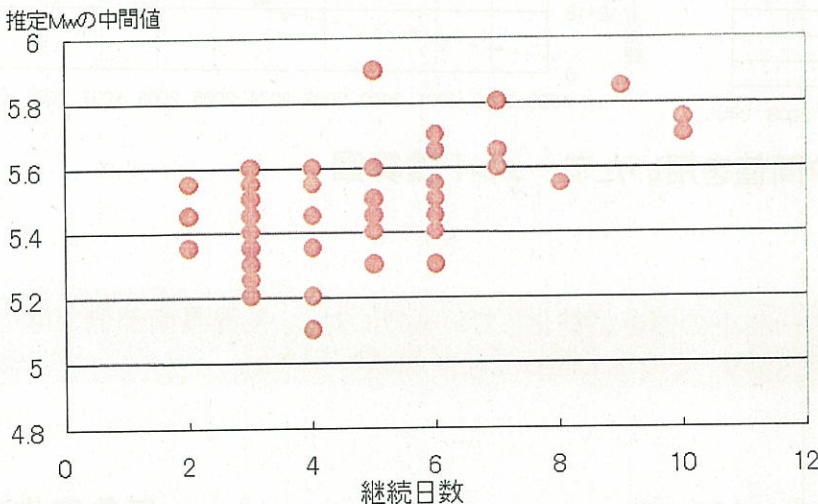
G-R則と相似な関係が成り立っているとすると、Mw5.4以下の短期的スロースリップの事例は、もっと多い可能性がある。

推定Mwの中間値の度数分布

観測成分数が少ない等で条件を満たさずに採用しなかった事例の推定Mwの中間値の度数分布

推定Mwの中間値	4.9	5.0	5.1	5.2	5.3	5.4	5.5	5.6	5.7	5.8	5.9	6.0	計
基準未満	1	2	6	7	4	3	1	2	0	0	0	0	26

新しい基準で抽出した事例のほかにこれらの事例もあり、一回り小さなMwで推定されているものがある。その他、低周波地震があったにも関わらず歪変化が無かった事例も多数存在するが、小さな規模の短期的スロースリップがもっと多い可能性がある。



継続日数が長いほど、規模も大きくなっている。

推定Mwの中間値と、短期的スロースリップの継続日数